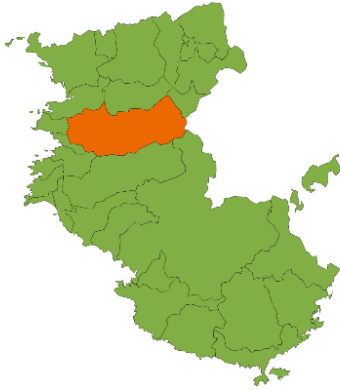


和歌山県有田郡有田川町

学生との協働による棚田保全・集落支援活動



【活動の基本情報】

参加学生数：23名

(1年生：2名、2年生：9名、3年生：6名、4年生：6名)

活動期間：2011年7月～

担当教員：大浦由美

1. 活動実施の経緯

有田川町での第19回全国棚田(千枚田)サミット(2013年度)開催決定をきっかけに、2010年に県が企画した「棚田モニターツアー」に当時の観光学部生約20名が参加した。地域の農業者の高齢化とともに耕作放棄地が増加する当地の現状を目の当たりにして、学生側から「棚田保全ボランティア」のアイデアが出されたことをきっかけに、学内で棚田保全ボランティアへの参加者を募り、「棚田ふぁむ」を結成。2011年7月から活動を開始した。

2. 活動の内容

コロナ禍の影響が続いていたが、今年度については、ほぼすべての現地活動を実施することができた。また、2022年秋「夕暮れのシエキノカワでピクニック」(10月29日)に3年ぶりに出店し、沼地区製品の販売やPRを行った。さらにJICA関西「地域理解プログラム」の一環として有田川町清水地区で実施された研修に参加し、棚田ふぁむの活動紹介および体験交流を実施した。その他の活動については以下の通りである。

- ・メンバー紹介および活動報告誌の作成
- ・沼地区および沼地区産品をPRするためのパンフレットの作成
- ・FM和歌山と観光学部生によるラジオ番組「ワダイノタビ」への出演(棚田ふぁむの活動や沼地区についての紹介)

3. 活動を通じて

ようやく現地活動を再開することができたが、感染状況をにらみながらの日程調整であったために時間がかかる等の問題により、参加者の確保の面では課題が残った。次年度は、学生・地域双方にとっての活動の意義をあらためて共有するために、地域の現状を把握するための調査活動を実施する予定である。

なお、本活動は、農林水産省「つなぐ棚田遺産」感謝状(未来へつなぐ部門)贈呈企業等のひとつとして選定された。長年にわたって本活動を支援していただいた全ての関係者に深く御礼申し上げたい。

4. 成果ポスター

棚田ふあむ



有田川沼地区LPP

●活動目的 棚田を保全する沼地区の支援

●有田川町沼地区について
和歌山県中央部に位置し、「日本の棚田百選」に選定された「あらぎ島」をはじめとして、多くの棚田が点在している。急傾斜地の棚田が美しく、近年では「ぶどう山椒」の栽培も盛ん。課題は高齢化が進み、沼地区の人口割合はほとんどは高齢の方が占めていること。その為、棚田やぶどう山椒も現在はそなたたちが栽培可能でも、後継問題や自分たちで栽培ができるかという問題が深刻。特産品：ぶどう山椒、高原トマト、米

●活動内容



機械が使えない狭い場所であるため、手でひとつひとつ丁寧に植えていきます！

5月 田植え・草刈り



小さな山椒の実を取り残さないように丁寧に収穫！炎天下で1日中作業するのは大変ですが、とても達成感があります！

7月 山椒収穫



沼地区の農家のみなさんが大切に育てて下さった5月に植えた稲を手作業で刈り取っていきます！

9月 稲刈り



干しておいた稲を脱穀する機械で脱穀、殻を取り去り、精米機にかけて玄米から白米に！精米したてのお米は輝いて見えます！

10月 脱穀・精米



イベントに出店し、沼地区の農産物を販売！沼地区のパンフレットも同時に渡して、積極的に沼地区をPRしました！

沼地区の農産物販売 inシエキノカワ



シカやイノシシによる農業被害が深刻であるため、地区の外縁を獣害予防のための柵で囲んでいます。倒木や壊れているところがないかチェックし、直します！

その他の活動（獣害柵の点検・補強）

「ふあむからのあのね」の作成 活動報告として地域の方々に渡しているニュースレターで、毎回の活動後に学生の感想や発見をまとめて、地域の方に発信！地域の方々が楽しみにして下さっているのが励みです(*^^*)

●今年度の総評
コロナが落ち着き、例年に比べて現地での活動を行うことができました。そのおかげで実際に自分たちで体験することができ、普段の生活では気づけないことにも気づくことができ貴重な体験をさせていただきました。また、地域の方々と直接お話をしたり、教えていただいたりする機会も多く、地域の方々との交流も深めることができました。

●来年度に向けて

- ①調査活動の強化 沼地区の住民へのヒアリング調査を行い、このプロジェクトへの新たなニーズを掘り起こす
- ②沼地区をより多くの人に知ってもらう活動を行う
沼地区は高齢化が進んでいるため、将来的に広大な棚田を守り切れないのではないかと危惧している。そのため、沼地区の魅力を多くの人に伝えることで移住者や協力者を呼び込む必要があるのではないかと考える。

合同報告会 当日の様子

和歌山県有田郡有田川町

テーマ：学生との協働による棚田保全・集落支援活動

棚田ふぁむからは3人のメンバーで参加しました。発表順は、1日目の最後でした。発表は普段お世話になっている沼地区の方や、県庁の方も発表を見に来ていただきました。発表後には「今年度も1年間ありがとう、上手くふぁむの活動をまとめてあった」「沼地区の魅力も端的にまとめられており分かりやすかった」と労いとお褒めの言葉も頂き、嬉しかったです。コメントシートでも、色々な感想を頂きました。ありがとうございました！ ひとつ質問を頂いたため、回答させていただきます。



Q. 米の天然乾燥がなぜ美味しくなるのか知りたくなった。

A. 機械乾燥だと短時間で高温乾燥させるためお米に負担がかかります。天日干しだと太陽の光でじっくり乾燥させるため時間はかかりますが、そのぶんお米にストレスがかからず、お米本来の味が引き出せるため、美味しく仕上がります。